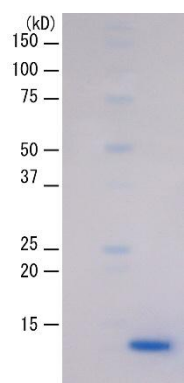


コレラ毒素 B サブユニット

商品コード	01-525
容量	50 µg
保存	-80°C 凍結融解を避ける
製品説明	本品は、<i>Vibrio cholerae</i> 569B 株から Finkelstein (2)及び Iijima & Honda (3)らの方法で高度に精製したコレラ毒素を、尿素存在下のゲルろ過クロマトグラフィーで精製し、更に 2 回のイオン交換クロマトグラフィーを行うことで毒性のない B サブユニットだけを精製した。
濃度	1.0 mg/ml
バッファー	20 mM Tris-HCl pH 6.8, 0.2M NaCl, 10% glycerol
純度	SDS-PAGE 解析で A サブユニットの混入は検出レベル以下であった。 コレラ毒素で CHO 細胞の形状変化の増加が検出できる量の 100 倍量の本品で処理しても形状変化の増加は起こらなかった。 コレラ毒素 B サブユニット(11.6kDa) 
アプリケーション	1. 抗原に対する特異免疫応答を高めるアジュバント効果 2. 神経細胞（ガングリオシド GM1 を持つ）の順行性および逆行性トレーサーとして利用
背景	コレラ毒素はコレラエンテロトキシンとも呼ばれ、激しい下痢を伴う食中毒を起こす通性嫌気性のグラム陰性菌 <i>Vibrio cholerae</i> が産生する。コレラ毒素は分子量 27.2 kD の A サブユニット 1 分子と 11.6 kD の B サブユニット 5 分子からなる複合体である。コレラ毒素は B サブユニットを介して、標的細胞表面にあるガングリオシド GM1 に結合し、細胞内に取り込まれる。細胞内で分離、プロセスされた A1 が G タンパク質の一つである促進性 G タンパク質(Gs)の α サブユニットを ADP リボシル化し、アデニル酸シクラーゼの持続的な活性化を引き起す(1)。
Data Link	UniProtKB: P01556
参考文献	1. 細菌毒素ハンドブック、サイエンスフォーラム社(2002) 2. Finkelstein, RA. & LoSpalluto, JJ. "Pathogenesis of experimental cholera. Preparation and isolation of cholera toxin and cholera toxinogenoid." <i>J.Exp.Med.</i>130, 185-202 (1969) PMID: 4978880 3. Iijima, Y. and Honda, T. "Enterotoxin of <i>Vibrio Cholerae</i>." In <i>Recent Advances in Marine Biotechnology</i>, Fingerman, M. and Nagabhushanam, R. ed. Science Pub. Inc.7: 41(2002) 4. Hirst TR & D'Souza in <i>The Comprehensive Sourcebook of Bacterial Protein Toxins</i>. 3rd ed. p 270-290, Academic Press (2006)d
Related Products	01-511 Cholera Toxin 01-521 Cholera Toxin A-subunit
※本製品は研究用です。ヒトを対象にした実験、診断および軍事目的に使用することはできません。	